

OMF インターナショナル日本委員会
〒272-0035 千葉県市川市新田 1-16-14
Tel. 047-324-3286 Fax. 047-324-3213
Email: hc@omf.or.jp
HP: omf.org/jp/ 郵便振替 00100-0-615052



地の果てのすべての者が私たちの神の救いを見る。(イザヤ 52:10)

タイのニュースレターから

タイ文化の大使として

もしあなたが、初めて日本の地を踏んだ外国人にとつて初めて出会う日本人だつたらと想像してみてください。日本文化、日本でのマナー、日本人の価値観を説明しようとする時、何を一番大切と思うでしょうか？

新しくタイへやって来た新人OMF宣教師にタイ語を教える語学の先生たちは、タイ語の難しい発音や曲がりくねったタイ文字の読み方に加え、実に様々なことを教えてくれる人々です。中には料理上手の先生たちもいて、新人宣教師たちにおいしいタイ料理の作り方を伝授してくれます。それらのことを通して、私たち新人宣教師は、楽しいことが大好きなタイ人の価値観や、円滑な人間関係を保ち、相手の「顔をつぶさない」ようにすることの大切さを教えてもらうのです。先生たちと生徒たちが一緒にあって、ワイワイと楽しみながらタイの踊りや、折ったバナナの葉を使う

タイ風の飾りつけの仕方を習うこともあります。

先生たちのうちの二人は、まだクリスマスチャンではありません。そんな先生たちからは時折、「タイ人すなわち仏教徒」という強い信念や、キリスト



タイ語の先生たち

教が今でも、多くのタイ人にとつて外国の宗教と思われていることが感じられます。私たちは異文化ショックを受けたり、または、自分たちの行動が福音宣教の妨げにならないよう、タイ風に改めようと四

苦八苦したりしています。語学の先生たちはそんなあたふたしている私たち新人宣教師の「最悪な部分」を日々目にしているのです。

●新人宣教師たちが、タイ人のようになり、タイ人の気持ちを損ねることなく、主イエスの大使として福音を伝えられるようお祈りください。

●六人のタイ語の先生たちのため。彼らがタイ語や文化について教えてくれることのゆえに主に感謝してください。

先生たちは新型コロナウイルスとそれに伴う経済的な不確かさのために困難な時を通っています。クリスマスチャンの先生たちが、私たちの岩である主に信頼し、タイ人の友人や家族にとつてよき証人であり続けられますように。

(ジュリア・パーケット師、
ロップブリ語学センター)

聖書プロジェクト進行中

二か月遅れましたが、「聖書プロジェクト」が九月一日にビデオを初公開しました。それ以降、続けて五つのビデオが公開されています。最初のビデオ

才は新約聖書の概観ですが、一週間ですでに千六百もの再生回数を記録しました。半年間近くかかって、ついにここまで来られたことで関係者はほっとしています。

私は全体のコーデイナーとして翻訳、音声、イラスト、アニメーションの各チーム間の調整役をしています。約十五人のスタッフとボランティアたちが、チェンマイとバンコクで作業をしています。現在二十余りのビデオを、それぞれの段階で製作中です。最初の六つのビデオは、一つのセットとして六月末に公開し、その後も毎月四つのビデオを公開する予定でした。

しかし、プロジェクトは霊的な攻撃を受け、ビデオ公開の時期には必ずといっていいほど予期せぬ問題が持ち上がり、公開の延期を余儀なくされました。そのため、現在予定より二か月遅れで作業が進んでいます。年末までに何とか未公開分のビデオを予定に合わせリリースしたいと願っています。お祈りください。

● 訳す機会が与えられたことを、主に感謝してください。

● 持ち上がってくる様々な問題への解決を見つげるために、製作チームに主が力と導きを与えてくださいますように。

● これらのビデオがタイ人ク



打ち合わせ中の製作チーム

● リスチャンたちのために豊かに用いられますように。彼らが見こばをさらに深く学びたいという願いをもって霊的に成長できますように。

● ビデオが未信者のタイ人のためにも用いられますように。

彼らがキリスト教に興味を持ち、神とみこばをさらに理解するため、聖書を読み始めますように。
(リチャード&リサ・チョー師夫妻、チェンマイ)

隣人を愛するとは？

国際主事

菅家 庄一郎
すがや しょういちろう

容子
ようこ

不思議な導きでスリランカ人の男性(Ｊさん)を家にお招きし一緒に食事をする機会がありました。スリランカ人の友人の名前を出すと「その苗字はタミール人だ」「その名前はシンハリ人」「その苗字はカトリック」スリランカの歴史をよく知らない私は「なるほど、名前ですその人の背景がわかるのか」と感心しました。

● 日本に出稼ぎに来たのですが約束の給料の半分くらいしかもらえず二年間を無駄にした、と嘆いておられま

した。コロナ禍で多くの企業が困難に直面していますが、国内で働く外国人労働者も例外ではありません。コロナ禍で仕事を失った方々、帰国したくても飛行機が飛ばない、航空券が高額で買えない、そういう外国人労働者の方々が多いようです。

● 帰り際にＪさんが「キリスト教について教えてほしい」と言うので、容子が結婚生活とイエス様の福音とを対比させながら英語で福音を語りました。どうかＪさんの心が開かれ神様を求められるようになりますようにお祈りください。

(庄一郎)
JOMA(海外宣教連絡協力会)の傘の下、年に二回持た



宣教師の子どもはサードカルチャーキッズとも呼ばれます

れているメンバケアミーティングの次回の学びは、宣教師子弟のケアについてです。私は、日本からブラジル、タンザニア、アメリカに遣わされている(いた)宣教師の親子にインタビュを申し込みました。ご両親には「宣教地で子供たちの教育にどのように取り組まれたか、その恵みと課題」について子供たちには「宣教師の子供として異文化で育った中で良かったこと、難しかったこと」について語っていただきました。いつもはニュースレターで平面的にしか知れなかった宣教師の先生方のご家庭や生活、葛藤や喜びが立体的に感じられました。印象的だったのは、親も子も正直に話してくださいましたこと。どれほど考え、悩み、手探りで主の導き、助けを祈りつつ子供たちの必要、最善を考えて歩んでこられたか、血の通った迫力のある言葉が聞けました。国や状況、そして子供たちの性格、賜物によって(同じ家庭内でも!)一人ひとり違う必要があることも感じました。皆さん「話したいことがいっぱいあってつい長い

くなります」と、あつという間に時間が過ぎたインタビュとなりました。欧米、韓国では宣教師子弟へのケアについて様々な取り組みがありますが、日本はまだまだこれからです。

十一月九日に予定されていますメンバケアミーティングでの学びの時間が祝され、用いられますようお願いください。皆様のお祈りを心から感謝しつつ。(容子)

宣教祈禱会ってどんなことをしているの？

国内主事 伊藤めぐみ
OMFでは、毎月全国各地で宣教祈禱会がもたれています。「宣教祈禱会って、いったいどんなことをしているの?」ときどきそんな質問を受けることがあるので、少しご紹介いたします。

OMF宣教祈禱会は、大きく二種類に分けることができます。一つは派遣されている宣教師の情報や、OMFから配信されているニュースをもとに幅広く祈るもの。もう一つは、ある特定の国や民族にターゲット

ットを絞って祈るものです。祈禱会の流れは、それぞれが集まりごとに多少の違いがありますが、いたってシンプルです。はじめに、賛美やみことばからのショートメッセージがあります。そのあとは、宣教



息子と教会にて いつもお祈り感謝します

師からのレポートや祈禱課題を分かち合い、ともに祈ります。国ごとの祈禱会では、その国の情報や祈禱課題が紹介され、祈りのときをもちます。ただ、OMF祈禱会には大きな特徴があります。それは、宣教師の生の報告を聞けると

ころです。帰国中の宣教師は、各地の教会を巡回します。同様に、この祈禱会でも報告をしますが、より詳しく具体的な「生の声」を聞くことができるのです。華々しい宣教報告だけでなく、その背後にある苦労や失敗、悲しみなどの人間らしい部分にも触れることができます。しかも、祈禱会に続けて出席すると「いつも祈っていた宣教師や国」が、「私と関係のある宣教師や国」に変化していきます。そのタイミングで生の証しに触れるとき、祈り手は宣教の働きの担い手であると実感するのです。この二〇二〇年はコロナの影響もあり、急速なオンライン化が進みました。いくつかの祈禱会では、オンラインで現地の宣教師とつながり、報告を聞くことができました。私もこの九月には、オンラインも含め五つの祈禱会に出席し、全国各地の多くの方々とともに祈る恵みにあずかりました。「私も参加してみたい」という方、ぜひOMFまでご連絡ください。祈りによる宣教を、一緒に体験しましょう。

修養会・セミナー、 フォーラム

日本ディアスポラ伝道

横山好江

オンライン全体修養会のためにお祈りいただき、ありがとうございます。九月三日の第一回は百名の参加で、小グループに数回分かれて短時間で工夫された自己紹介をし、一体感を味わうことができました。続いて別枠で持たれた小グループでは四名の同労者と分かち合い、祈りの時を持ちました。次回、十月八日に在外邦人伝道チーム約三十名で、二回目のオンライン修養会を行います。数名で準備を進めてきました。気心知れた仲間です。楽しんでいきます。九月は日本の超教派の宣教団体が開催するオンライン・セミナー二つに参加しました。二十二日はアンテオケ宣教会のセミナー。アンテオケ宣教会は、長年数多くの日本人宣教師を世界各地に送ってこられました。現役の宣教師が宣教地からオンラインで報告さ

れました。また、故・中村哲医師の同労者の姉妹から、中村医師のお働きの報告がありました。アフガニスタンの人々を愛して、人々の必要に応え、身を挺して働かれた姿に大変感動しました。

二十九〜三十日は日本福音同盟（JEA）の宣教フォーラム。「新型コロナウイルスと教会の社会的責任」では、医師である吉田浩二牧師からご自身の保健所勤務の経験、そして疫学の見地から、教会の礼拝と伝道の在り方が語られ、私自身が置かれている奉仕のために多くを教えられました。

分科会では、日本での外国人教会の様子を教えられました。ベトナム語礼拝とネパール語礼拝。それぞれ、お世話をしておられる日本人牧師と共に、ベトナム人姉妹そしてネパール人牧師が語られ、彼らが日本という異国においても母語で礼拝を続け、同胞に伝道しておられる熱い思いが伝わってきました。

もう一つの分科会ではフィリピン語教会の牧師、中華教会の牧師、そして外国人を多く

迎えてもらえる日本の教会の牧師が語られました。小グループに分かれて、外国語教会と日本の地域教会との宣教協力話を話し合いました。その中から印象的な発言を記します。

※宣教が許されない国から来る人を含め、どんな国から来る人に対しても、日本では宣教の自由がある。世界宣教は私達の戸口にある。※日本語しかできなくても外国人を歓迎し共に教会形成する姉妹の証し。愛が鍵である。※外国語教会の兄姉は、日本の教会と協力を求めている。その二つの方法は会場の提供。日本の教会が会場の提供を検討する際、使い方の違い等から躊躇する場合がある。双方が話し合っ、約束事を交わすと良い。理解してくれれば協力的になつてくれるもの。

またJEAが双方を繋ぐ役割を担うという点も複数の方から挙げられました。今後に期待し祈りたいと思います。



上にあるものを思い

タイミエン族 有澤 達朗

たまみ

ミエン語聖書翻訳をしたアン・バージェス師と同時にタイへ来たヴァーナ・アスプレー宣教師のことを、日本へ伝えたことは今までありませんでした。八月二十九日、カナダで召天されました。

師は二〇一六年帰国後もカナダのミエン族教会を助けていたので、その教会の主催で九月にインターネット上で記念礼拝が行われました。

アスプレー師は一九三三年カナダ生まれ。六四年、バージェス師とフライデルフィアで宣教師訓練を受け、シンガポール訓練所でヘンリー・ブライデンタル医師と合流、三人はミエン族へ遣わされました。アスプレー・バージェスのコンビは北部タイのタンマジヤーク村でミエン語を学びました。隣国のミエン族が大勢福音に応答しない団体から、アスプレー師とバ

ージェス師へ応援要請が来ました。まだミエン語を半年しか学んでいませんでしたが、二人は応答し、六七年、国境である川を渡りました。二人とも看護師で医療を提供しながら伝道し、六八年には信者の群れができました。しかし政情が不安定になり、六九年タイへ避難。

この退却により、別のミエンの村で奉仕していたプライデンタル医師はバンコクでの神学校創設へと移り、アスプレー師はクンメーボン村の開拓伝道へ。さらに、その信徒リーダー、グエイフォン兄のミエン語の賜物をバージェス師へ推奨したことにより、聖書翻訳が始まり、二十八年後出版へ。アスプレー宅でクンメーボン教会が始まりましたが、家が焼失し、師はバヤオ県に移動。バヤオ聖書学校の教師となり、週末や学期休みにミエン族神学生を連れて県内外のほぼ全てのミエンの村へ伝道。閉ざされた扉は、必ず新たな方面での働きを開きます。コロナ禍で様々な制限に直面するとき、このことを期待したいと思いま

す。
記念礼拝では、オレゴン・ミエン教会ヤオフツ牧師の奨励があり、アスプレー師のキリスト者価値観をこうまとめました。「この世に何の興味も未来もない、コロナイ三章一〜四節



（たまみの隣から）
プライデンタル師、アスプレー師、先輩たちと、
ミエ・チーム大先輩たちと、
バージェス師、アスプレー師、

を具体化した人」。また同国人と同じく医療者で宣教師訓練期からの同僚バージェス師は、旧知の友を「祈りの人、伝道者」とまとめました。「ヴァーナが声をかけた人はイエス様を信じる」それほどの賜物でした

が、それは祈りに裏打ちされ
ていました。五歳のわんぱく坊や
はヴァーナから「今はわからなく
ても、あなたも神様の愛を知れば、
将来神様に仕えたくなる」と言われ、
祈られ、今はシアトル・ミエン教会の
伝道熱心な役員となっています。
今、ミエン族のいる六か国で使
われているミエン語賛美歌集の
初版は、バージェス師とアス
プレー師が翻訳編纂し、後にた
まみが増補改訂したものです。

あのとき五歳だった川向う
の坊やは「神様は私たちを愛
しておられる。だから私たちが
は「神様はあなたをも愛して
いる」と言うために来た」と
いう師の生き方が忘れられま
せん。彼は「今度は私の番だ」
と言ひ、参列者にこう言っ
てしめくりました。「同じ福音を
語り続け、霊の母と同じよう
にゴールまで走り切ろう」
（達朗）

一九九七年、第二期の始まり
の時のこと。椎間板ヘルニアの
術後の私は、医者から「未舗
装道路を走るのには車でもダメ。
オートバイはもつてのほか。舗
装道路が通じている限りはミ

エン族の村へ行っても良い」と
釘を刺された。チェンライ県内
のミエン族の村のことばかり考
えていた私たちに「バヤオ県の
ミエン族の村へ行きなさい。働
き人がいない村がいっぱいあ
る。バヤオへ行きなさい」とグ
ツと背中を押したのは定年間
近のアスプレー師だった。道は
舗装されていた。

ミエン語聖書翻訳者、ミエン
語福音伝道ラジオ担当者など
も、アスプレー師の祈りと押
して始まった。定年を迎えた
六十五歳には、引退を引き延
ばし、長年祈ってきた福音伝
道の困難な国へ六十八歳に
なつてから行った。当地の公
用語習得がまだ不十分なとき、
ミエン語でミエン族の人達を救
いに導いた。それは宣教師初
期からあらゆるミエン族の村を
探して伝道して歩いたアス
プレー師そのものであった。

アスプレー師をはじめ、ミエ
ン族宣教師チームの二十八年
間の祈りの答えが、現在のミエ
ンチームであるネリー・タム師
と私達夫婦の三人。そして来
年、タム師は定年を迎える。
私達三人は二十六年間、後

継者宣教師が与えられるように祈ってきている。タム師に続き私たちも数年で定年を迎える。主よ、後継者をお与えください、とミエン族教会の人々と共に祈っている。(たまみ)

主にある勇氣を持つ

カンボジア 今村裕三
いむら ゆうぞう
ひとみ

九月は本当に祈らされた月でした。OMFカンボジアはNGOとして政府に登録しています。三年ごとにNGO登録の更新があり、今年はその更新の年です。上半期に教育省と宗教省との更新手続きを終え、外務省との更新手続きに入りました。すべての書類を提出してから、何回も追加の書類を要求されました。そうこうしているうちに九月に入る直前、もうビザ更新をしないと連絡がありました。ビザの種類を変えるためには一度出国しなければなりません。普段であれば、さほど難しいことではないのですが、この新型コロナウイルスの影響で、外国

人が簡単に入国できる隣国がありません。母国に戻るのが最善の道です。しかし、航空券が通常の倍から四倍になっており、また、カンボジアに再入国するのもなかなか難しくなっています。あと数日でビザが切れる家族があり、外務省の担当の方に電話をし、事情を説明して、なんとかビザの延長をしてくださるようお願いしました。多くの方に祈っていたとき、その家族のビザが切れた二日後に、外務省から特別にビザを更新するという連絡を受け、感謝しました。その三週間後にもビザが切れる家族があります。皆で祈りに覚えていましたら、OMF全員のビザを更新するという知らせを受け、その一週間後、NGO資格更新を認めるとの連絡がありました。これで三年間、無事にNGOとして活動を続けることができます。OMFカンボジアの代表として本当にホッとしたことでした。

この困難を通して、遣わされている宣教師一同が一致して祈ることができたように思います。多岐にわたる働きで、

チームとしての一致がなかなか持ちにくい状況でしたが、よい霊的な訓練のときとなりました。お祈りに覚えてくださった皆さまにも心から感謝申し上げます。(裕三)

「謝りたいの？」と私が問うと、リーちゃん(小四)はうなずき「でも怖くていけない」と言うので「じゃあ一緒に行くね」と二人で手を繋いで歩き出しました。小さい手は微かに震えています。

事の始まりは：リーちゃんは怒り始めると止められず、



出張教会学校の一コマ

ものすごい勢いで人を罵り、人間関係を壊す傾向があります。教会学校でも二度ほど突然に怒り出し、止めるのが大変でした。怒り出す原因は相手にもあるのですが、彼女の怒りの噴火が激しすぎて周囲の人を遠ざけています。

教会学校をさせていたでいるロアット君のお家でも以前、爆発して怒り出し、大人に対して酷い言葉を言ったらしく、それ以降はロアット君の家には出入り禁止となっていました。

お母さんは洗濯の仕事をロアット君の家でさせてもらっているのですが、リーちゃんをかばうどころか、他の人と一緒になって自分の娘を批判しています。過去の爆発の結果、リーちゃんは学校や家でも居場所がありません。

ある日、彼女が一人で行ったで、ダニエルのお話を一緒に読みました。そして上述の「謝りにいきたい」という事になったのですが、その日は大人が不在で謝ることはできませんでした。その日、リーちゃんはダニ

毎月十日、経済の祝福のためにお祈りをお願いいたします。

エルのように勇氣を持ちたい！
神様が一緒にいてくださる！と
足を踏み出しましたが、日常
を見ていると神様の事にまだ
それ程興味がありません。

ソッケーン兄の娘シーアンメ
イさんは受洗を希望して学び
を始めました。しかし、実生
活でリーちゃんも仲良くする
ことはできていません。リーち
やんの存在を通して、周りのク
リスチャンもどう神様の愛を
実践していくかを試されてい
ます。リーちゃんも周囲の人
もこの事を通して、本当の神様
と出会えるようにお祈りくだ
さい。(ひとみ)

つながりました！

日本 総主事 佐味 湖幸

OMFの各フィールドは毎
月のようにニュースや祈りの課
題を出しています。全て英語
なので、スタッフの黒澤姉が毎
月一つ二つのニュースを日本語
に訳して「今月の祈りのフォー
カス」として出してくださり、
OMF宣教祈祷会で読んでそ
のフィールドのことを祈るよう

にしています。

九月の祈りのフォーカスで
は、タイのナコーンシータマ
ラート県で働くバートリート宣
教師が書いた、あるタイ人ク
リスチャンの証を取り上げま
した。新型コロナウイルスで収
入源をなくし、苦しんでいる隣人に具
体的な行動をおして助ける
ことができたという証でした。

さて、ある宣教祈祷会に出
席していたM師から後日私に
メールがあり、あの証を書か
れた宣教師と連絡がつかない
かと尋ねられました。東京の
M師の教会に二年半ほどナ
コーンシータマラート県からタイ
人Rさんという方が来ておら
れたそう、日本で信仰をも
つて先日タイに戻り、ナコー
ンシータマラート県にあるW大
学で働いているが、まだ教会
が見つかからないということ
でした。タイフィールドのバート
リート宣教師に連絡を取るとす
ぐに返事があり、Rさんが働
いているW大学で他の宣教師
が働いていることや近所にいく
つか小さい教会があることを
知らせてくださいました。この
後、Rさんは無事にW大学で

奉仕している宣教師と会う約
束がとれました。主の不思議
な導きを感じました。

この話を他の宣教祈祷会
でお分かちしましたら、昔タイ
で学生伝道をしていた牧野伊
豆先生が「私たちがタイにい
た四十年前は、ナコーンシー
タマラート県にはまだ大学はな
かったし、教会もなかった。そ
こに大学ができ、主の働きが
進められていることは嬉しい。
日本で救われたタイ人がいる
ことも嬉しい」と、感慨深げ
に語られました。

海外で救われた東アジア人
が母国に戻った時にうまく現
地のクリスチャンや教会とつな
がり、適切にフォローアップさ
れるように祈りたいと思いま
す。

行く道すべてにおいて

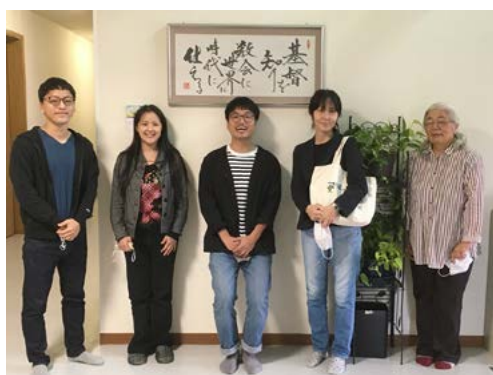
主を知れ

待機宣教師 坂西 信悟

神学生時代の三年間を過
した北海道を訪問した九月、
札幌国際キリスト教会と母校
である北海道聖書学院(HB

I)に滞在させていただき、札
幌を中心に教会訪問をしまし
た。学びと訓練を受けた地で
過ごした一ヶ月間は、主の真実
さを確認するときとなりました。

感謝だったことのひとつは、
同窓生との再会と交わりの機
会が多く与えられたことです。
同じ釜の飯を食べた兄弟が、
それぞれの遣わされた先で、
任された役割に右往左往しな
がらも取り組んでいる様子
(ときには北海道のおいしいご
飯とともに!)聞くことがで
きました。失敗や葛藤を経験



北海道聖書学院のモットーの前で

シヤローム祈祷会 宮崎清水町教会 活けるキリストー表教会 名古屋福音教会 西宮祈祷会 礼拝祈祷会 新下関教会
 毎月第四土曜日 2:00pm 毎月第二木曜日 5:30pm 毎月第一土曜日 2:00pm-3:30pm 毎月第二水曜日 10:00am 門戸聖書教会 (JECN) 礼拝国際キリシタ教会 毎月第二金曜日
 毎月第一土曜日 2:00pm-3:30pm 毎月第二水曜日 10:00am 毎月第四金曜日 7:00pm 毎月第三金曜日 2:00pm 毎月第二金曜日 10:00am

しつつも、主の恵みとあわれみによって守られてきたこと、その中で主ご自身をますます知っていったことを分かち合う交わりに励まされました。HBIのモットーである「キリストを知り教会に時代に世界に仕える」の言葉通りの歩みへとそれぞれが導かれていることを見聞きし、主の御名をあがめました。

また、これまでに様々な形でお世話になった教会やOMF祈祷会にも伺うことができたことも感謝でした。宣教師への導きを求めていることを私が神学生だった頃から知っていたのださりと、祈りに覚えてくださったいた方々にも、これまでの感謝をお伝えするとともに、今後のことについてお話しすることができました。新しい出会いも与えられつつ、主の宣教にともに仕えていく関係を主が築いていってくださいます。

訪問した先々で、メコンフィールド内の派遣先(国・少数民族)の導きのためにお祈りをお願いしています。二つに絞られた選択肢のどちらに行く

のか、祈り、祈られ、悩みつつ、主に教えられていることは、「あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ」(箴言三・六)ということですので。どちらに行くにせよ、行つたところで主ご自身を知るのだということを御言葉から確認しています。これまでの歩みを主がいっぱい導いてくださったことを振り返りながら、次のいっぽへと信仰によって踏み出すことを求められています。

ミニストリーができてうれしい！

在英邦人ディアスポラ伝道
 そうまひろみ
 相馬裕美

バーミンガムのロックダウンは、さらに厳しくなりました。今は家同士の行き来ができなくなり、ミニストリーがとてもやりにくくなっています。この新たなロックダウンの直前に、学生の集まりをしました。この時は、庭で六人まで会って良かったので、三人の学生さんと韓国人の宣教師さんと五人で会いました。二メートルあけ

て座り、持参したお昼ご飯と一緒に食べ、ソーシャルディスタンスゲームをいくつかやりました。私にとってはこの時間がとても愛おしく思えました。いつロックダウンが厳しくなっても会えなくなるかもわからない学生さんと過ごす楽しい時間です。



再ロックダウン直前の学生の集まり

した。この週の日曜日には先月救われたRさんと一緒に庭でオンライン礼拝に参加しました。私も半年ぶりに「人と一緒に礼拝する」ことを経験できました。今までは当たり前だった

「教会に行つて礼拝する」ということがどんなに恵まれたことだったのか、どんなに祝福されたことだったのかを改めて感じる事ができました。このままずっとここで礼拝していきたいという気持ちになりました。この週を境に厳しいロックダウンとなり、私たちは庭で会うことすらできなくなりました。

普通なら学生伝道に忙しい時期です。今年は日本人学生さんには会えないのかなと思つていると二人の学生さんからコンタクトがありました。去年の学生さんが置いていった日用品をまた新しい学生さんに渡せる恵みに心から感謝しています。去年のこの時期は忙しい、忙しいと思つていましたが、今年はお会えてうれしい、ミニストリーができてうれしいといううれしい気持ちの連続です。与えられた貴重な出会いに感謝して新しい学期が始まります。



OMF 宣教師祈祷会 市川サ・チャペルオファブドリージョン コムメンソット小倉井教会 大阪・昭和聖書教会 東京・板橋祈祷会 久米宅 宣教師祈祷会 by Zoom
 詳細は事務局まで 毎月第三水曜日 10:30am-7:30pm 毎月第二水曜日 10:30am 毎月第三火曜日 7:00pm 毎月第三金曜日 1:30pm-3:00pm 毎月第一金曜日 1:30pm-